

Y07c

アジアの星物語にもとづくプラネタリウム教育教材の製作

福田尚也、阿辺倫子（岡山理科大学）

星・星座の神話として、一般的に知られているのはギリシャ神話だが、我々の住むアジア地域にも様々な神話が古くから伝えられている。2009年の世界天文年をきっかけに、国立天文台の海部宣男氏を中心として、アジア地域の神話・伝説を世界に紹介することを目指した「アジアの星プロジェクト」が立ち上げられた。その成果として、2014年2月にアジア13の国・地域の神話・伝説をまとめた書籍「アジアの星物語」が万葉舎から出版された。本研究では、この書籍を題材に我々の住むアジア地域にも数多くの魅力的な神話が存在しそれを伝えることと、アジア地域の神話を用いて天文教育を普及することを目指し、プラネタリウム教育教材を製作した。製作した教材のうちモンゴルの遊牧民の神話である「太陽と月」を、2015年2月15日に、岡山理科大学と協力体制にある岡山県生涯学習センター「人と科学の未来館サイピア」にて上映を行った。大学の高校生向けの恐竜講演会と共同実施し、プラネタリウム上映の際には、一般客にも入場していただいた。参加者に対して、星・星座の神話に関する簡単なアンケートを実施した。アジア（モンゴル）の神話は、プラネタリウムの一般客においては、多くの人に興味を持ってもらえることが分かった。また、ギリシャ神話と比較した場合は、どちらかというギリシャ神話に興味を持つ人が多いことが分かった。